

# 元宮遺跡5次

2017年

日田市教育委員会



墳墓群全景（東から）



墳墓群遠景（南から）



## 序 文

この報告書は、当委員会が平成26年に福祉施設建設工事に伴って発掘調査を行った元宮遺跡5次の調査内容をまとめたものです。

調査では弥生時代末から古墳時代中頃にかけての墳墓群が発見されました。周辺ではこれまでに4次にわたる調査や試掘が行われており、調査地周辺の舌状丘陵頂部には墓群が広がっていたことが明らかとなっています。今回の調査ではこれまでのなかで最も密集した墓群を検出することができ、この墓群の構成や日田盆地における当該期の葬送儀礼の展開などを考える意味で貴重な発見となりました。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や地域の歴史、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、作業に従事いただきました皆様方や、調査にご協力いただきました関係者の方々に対しまして心から厚くお礼申し上げます。

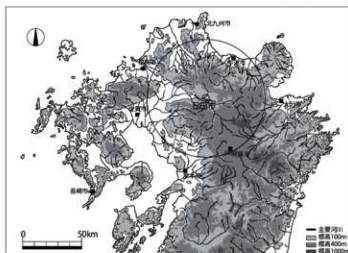
平成29年3月

日田市教育委員会教育長

三笥 眞治郎

## 例 言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成26年度に実施した「元宮遺跡5次調査」の発掘調査報告書である。
2. 調査地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地である「元宮遺跡」に含まれるが、調査次数を割り振っているもののなかには試掘調査分が含まれるなど混乱をきたしている。そこで、本報告において、発掘調査届（保護法第99条）を提出したものを対象に調査次数の整理を行い、「4・5次→試掘」、「6次→4次」に変更するものとする。そのうえで、本調査地は「7次→5次」調査に変更して報告するものとし、以後既刊分も含めてこの次数に変更するものとする。
3. 調査は福祉施設建設工事に伴い、社会福祉法人翠明会の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
4. 調査現場での実測は（株）埋蔵文化財サポートシステム大分支部に委託した以外は、調査員及び森山敬一郎（発掘作業員）が行い、写真撮影は担当者が行った。
5. 本書に掲載した遺物実測・遺物写真撮影、遺構・遺物の製図は（株）九州文化財総合研究所及び雅企画有限会社に委託した成果品を使用した。
6. 挿入図の方位のうち、遺構図は磁北、第1～4・29図は方眼北を示し、国土座標は世界測地系に基づいている。
7. 写真図版の遺物に付した数字番号は、全て挿入図番号に対応する。
8. 出土遺物及び図面・写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
9. 本書の執筆はⅠ・Ⅱは行時、Ⅲ・Ⅳは渡邊が行い、編集は渡邊が担当した。



## 本文目次

## 写真図版目次

I 調査に至る経緯と組織	1
II 遺跡の立地と環境	2
III 調査の記録	
(1) 調査の概要	3
(2) 遺構と遺物	3
箱式石棺墓	3
石蓋土坑墓	8
土坑墓	17
土坑	22
その他の遺構	22
IV 総括	24

巻頭図版	
墳墓群全景(東から)	② 22号墓検出状況(南西から)
墳墓群遠景(南から)	④ 22号墓完掘状況(南西から)
図版1	⑤ 31号墓検出状況(南から)
調査区遠景(東から)	⑥ 31号墓完掘状況(南から)
調査区全景(上が南西)	⑦ 32号墓検出状況(北から)
図版2	⑧ 32号墓完掘状況(北から)
① 2号墓検出状況(東から)	図版9
② 2号墓石棺検出状況(北から)	① 35号墓検出状況(北から)
③ 2号墓完掘状況(北から)	② 35号墓完掘状況(北から)
④ 2号墓副葬品出土状況①	③ 23号墓検出状況(南東から)
⑤ 2号墓副葬品出土状況②	④ 23号墓完掘状況(南東から)
⑥ 8号墓検出状況(南西から)	⑤ 34号墓検出状況(北から)
⑦ 8号墓石棺検出状況(南西から)	⑥ 34号墓完掘状況(北から)
⑧ 8号墓完掘状況(南西から)	⑦ 24号墓検出状況(南東から)
図版3	⑧ 24号墓完掘状況(北から)
① 10号墓検出状況(北から)	図版10
② 10号墓人骨出土状況(北から)	① 25号墓検出状況(東から)
③ 10号墓完掘状況(北から)	② 25号墓完掘状況(東から)
④ 19号墓検出状況(南から)	③ 26号墓検出状況(東から)
⑤ 19号墓完掘状況(南から)	④ 26号墓完掘状況(南から)
⑥ 36号墓検出状況(南から)	⑤ 27号墓検出状況(北から)
⑦ 36号墓石棺検出状況(南から)	⑥ 27号墓完掘状況(南から)
⑧ 36号墓完掘状況(南から)	⑦ 28号墓完掘状況(南から)
図版4	⑧ 29号墓検出状況(東から)
① 1号墓検出状況(東から)	図版11
② 1号墓完掘状況(南から)	① 29号墓完掘状況(東から)
③ 3号墓検出状況(西から)	② 29号墓遺物出土状況
④ 3号墓完掘状況(南から)	③ 30号墓検出状況(東から)
⑤ 4号墓検出状況(西から)	④ 30号墓完掘状況(東から)
⑥ 4号墓検出状況(西から)	⑤ 30号墓副葬品出土状況
⑦ 5号墓検出状況(南東から)	⑥ 29・30号墓完掘状況(南から)
⑧ 5号墓完掘状況(北東から)	⑦ 33号墓検出状況(南東から)
図版5	⑧ 33号墓完掘状況(南東から)
① 6号墓検出状況(南東から)	図版12
② 6号墓完掘状況(南西から)	① 37号墓検出状況(北東から)
③ 7号墓検出状況(北東から)	② 37号墓完掘状況(北東から)
④ 7号墓完掘状況(北東から)	③ 37号墓副葬品出土状況
⑤ 9号墓検出状況(南から)	④ 38号墓完掘状況(南西から)
⑥ 9号墓完掘状況(南から)	⑤ 39号墓完掘状況(南から)
⑦ 11号墓検出状況(北から)	⑥ 40号墓完掘状況(南東から)
⑧ 11号墓完掘状況(北から)	⑦ 41号墓完掘状況(北東から)
図版6	⑧ 42号墓完掘状況(南から)
① 12号墓検出状況(東から)	図版13
② 12号墓完掘状況(南から)	① 43号墓完掘状況(東から)
③ 13号墓検出状況(南から)	② 44号墓完掘状況(南から)
④ 13号墓完掘状況(南から)	③ 45号墓検出状況(北から)
⑤ 14号墓検出状況(南から)	④ 45号墓完掘状況(南から)
⑥ 14号墓完掘状況(南から)	⑤ 46号墓検出状況(南西から)
⑦ 15号墓検出状況(南から)	⑥ 1号土坑完掘状況(東から)
⑧ 15号墓完掘状況(東から)	⑦ 2号土坑検出状況(南東から)
図版7	⑧ 2号土坑土層①
① 17号墓検出状況(東から)	図版14
② 17号墓完掘状況(南から)	① 2号土坑土層②
③ 16号墓検出状況(南から)	② 2号土坑完掘状況(南から)
④ 16号墓完掘状況(南から)	③ 2号土坑遺物出土状況①
⑤ 18号墓検出状況(南から)	④ 2号土坑遺物出土状況②
⑥ 18号墓完掘状況(東から)	⑤ 2号土坑遺物出土状況③
⑦ 20号墓検出状況(南東から)	⑥ 2号土坑遺物出土状況④
⑧ 20号墓完掘状況(南東から)	⑦ 1号溝完掘状況(北西から)
図版8	⑧ 2号溝検出状況(南から)
① 21号墓検出状況(南から)	図版15 出土遺物
② 21号墓完掘状況(南から)	図版16 出土遺物

## 挿図目次

第1図 調査区位置図(1/6,000)	1
第2図 周辺遺跡分布図(1/20,000)	2
第3図 周辺地形図(1/1,000)	3
第4図 基本土層図(1/40)	3
第5図 調査区全体図(1/200)	4
第6図 2・8号石棺墓実測図(1/40)	5
第7図 10・19号石棺墓実測図(1/40)	6
第8図 36号石棺墓実測図(1/40)	7
第9図 石棺墓出土遺物実測図(1/2、1/4、1/6)	7
第10図 1・3号石蓋土坑墓実測図(1/40)	8
第11図 4・5号石蓋土坑墓実測図(1/40)	9
第12図 6・7号石蓋土坑墓実測図(1/40)	10
第13図 9・11号石蓋土坑墓実測図(1/40)	11
第14図 12・13号石蓋土坑墓実測図(1/40)	12
第15図 14・15・17号石蓋土坑墓実測図(1/40)	13
第16図 16・18号石蓋土坑墓実測図(1/40)	14
第17図 20～22号石蓋土坑墓実測図(1/40)	15
第18図 31・32・35号石蓋土坑墓実測図(1/40)	16
第19図 石蓋土坑墓出土遺物実測図(1/2、1/4)	16
第20図 23・34号石蓋土坑墓実測図(1/40)	17
第21図 24～27号土坑墓実測図(1/40)	18
第22図 28～30号土坑墓実測図(1/40)	19
第23図 33・37～39号土坑墓実測図(1/40)	20
第24図 40～46号土坑墓実測図(1/40)	21
第25図 土坑墓出土遺物実測図(1/2、1/4)	22
第26図 土坑実測図(1/60)	23
第27図 2号土坑出土遺物実測図(2/3、1/2、1/4)	24
第28図 その他の遺物実測図(2/3、1/2)	24
第29図 墳墓群配置図(1/400)	25

## 本文写真目次

本文写真1 調査作業風景	1
本文写真2 基本土層	3

## 表目次

第1表 検出墳墓一覧表	26
第2表 出土土器観察表	26
第3表 出土土器・金属器観察表	26

① 10号墓完掘状況(北から)	⑨ 10号墓完掘状況(北から)
② 10号墓人骨出土状況(北から)	⑩ 25号墓完掘状況(東から)
③ 10号墓完掘状況(北から)	⑪ 25号墓完掘状況(東から)
④ 19号墓検出状況(南から)	⑫ 26号墓検出状況(東から)
⑤ 19号墓完掘状況(南から)	⑬ 26号墓完掘状況(南から)
⑥ 36号墓検出状況(南から)	⑭ 27号墓検出状況(北から)
⑦ 36号墓石棺検出状況(南から)	⑮ 27号墓完掘状況(南から)
⑧ 36号墓完掘状況(南から)	⑯ 28号墓完掘状況(南から)
図版4	⑰ 29号墓検出状況(東から)
① 1号墓検出状況(東から)	⑱ 29号墓完掘状況(東から)
② 1号墓完掘状況(南から)	⑲ 29号墓遺物出土状況
③ 3号墓検出状況(西から)	⑳ 30号墓検出状況(東から)
④ 3号墓完掘状況(南から)	㉑ 30号墓完掘状況(東から)
⑤ 4号墓検出状況(西から)	㉒ 30号墓副葬品出土状況
⑥ 4号墓検出状況(西から)	㉓ 29・30号墓完掘状況(南から)
⑦ 5号墓検出状況(南東から)	㉔ 33号墓検出状況(南東から)
⑧ 5号墓完掘状況(北東から)	㉕ 33号墓完掘状況(南東から)
図版5	図版12
① 6号墓検出状況(南東から)	① 37号墓検出状況(北東から)
② 6号墓完掘状況(南西から)	② 37号墓完掘状況(北東から)
③ 7号墓検出状況(北東から)	③ 37号墓副葬品出土状況
④ 7号墓完掘状況(北東から)	④ 38号墓完掘状況(南西から)
⑤ 9号墓検出状況(南から)	⑤ 39号墓完掘状況(南から)
⑥ 9号墓完掘状況(南から)	⑥ 40号墓完掘状況(南東から)
⑦ 11号墓検出状況(北から)	⑦ 41号墓完掘状況(北東から)
⑧ 11号墓完掘状況(北から)	⑧ 42号墓完掘状況(南から)
図版6	図版13
① 12号墓検出状況(東から)	① 43号墓完掘状況(東から)
② 12号墓完掘状況(南から)	② 44号墓完掘状況(南から)
③ 13号墓検出状況(南から)	③ 45号墓検出状況(北から)
④ 13号墓完掘状況(南から)	④ 45号墓完掘状況(南から)
⑤ 14号墓検出状況(南から)	⑤ 46号墓検出状況(南西から)
⑥ 14号墓完掘状況(南から)	⑥ 1号土坑完掘状況(東から)
⑦ 15号墓検出状況(南から)	⑦ 2号土坑検出状況(南東から)
⑧ 15号墓完掘状況(東から)	⑧ 2号土坑土層①
図版7	図版14
① 17号墓検出状況(東から)	① 2号土坑土層②
② 17号墓完掘状況(南から)	② 2号土坑完掘状況(南から)
③ 16号墓検出状況(南から)	③ 2号土坑遺物出土状況①
④ 16号墓完掘状況(南から)	④ 2号土坑遺物出土状況②
⑤ 18号墓検出状況(南から)	⑤ 2号土坑遺物出土状況③
⑥ 18号墓完掘状況(東から)	⑥ 2号土坑遺物出土状況④
⑦ 20号墓検出状況(南東から)	⑦ 1号溝完掘状況(北西から)
⑧ 20号墓完掘状況(南東から)	⑧ 2号溝検出状況(南から)
図版8	図版15 出土遺物
① 21号墓検出状況(南から)	図版16 出土遺物
② 21号墓完掘状況(南から)	

## 1 調査に至る経過と組織

平成 25 年 9 月 18 日付けで社会福祉法人翠明会より市教育委員会あてに、日田市大字求米里字堂園 605-1 ほか 5 筆について福祉施設建設工事に先立つ埋蔵文化財の所在に関する照会文書（事前審査番号 2013049）が提出された。この開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である元宮遺跡に該当し、開発対象地に隣接する福祉施設建設や近隣での土取工事の際に遺跡が確認されており、対象地に遺跡が存在する可能性が非常に高いことが予想されたことから、その取扱いについて協議が必要である旨の文書回答を行った。その後 10 月 3 日には予備調査依頼が提出され、これを受けて 10 月 17～21 日に重機と作業員による予備調査を実施した。その結果、現地表面から約 40～90 cm の深さで石棺墓や土坑墓、土器片などが確認され、遺跡の存在が明らかとなった。予定地の造成は全面が切土工法となることから遺跡の保存が困難であると判断し、造成地全面を対象とした発掘調査の実施に向けて開発主と協議を重ねた。その結果、平成 26 年 4 月 8 日に事業主との委託契約を取り交わし、4 月 14 日から 8 月 7 日までの間、発掘調査を実施した。また平成 27 年 10 月 16 日から平成 28 年 1 月 12 日の間整理作業を実施し、平成 28 年度に報告書作成を行った。現地での発掘調査の経過は次のとおりである。



写真1 調査作業風景

4 月 14 日 重機による表土除去・遺構検出開始

4 月 15 日 作業員による遺構検出および遺構掘り下げ開始 強粘性の赤土と少雨による乾燥に苦慮

5 月 27 日 調査補助業務開始（株式会社 埋蔵文化財サポートシステム 大分支店に委託）

6 月 13 日 空撮実施

8 月 7 日 器材撤収、現地での作業完了

なお、平成 26～28 年度の調査組織は次のとおりである。

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 合原多賀雄（日田市教育長：～26 年 6 月）、三苫眞治郎（同教育長：26 年 7 月～）

調査統括 財津俊一（文化財保護課長：26 年度）、柴尾健二（同課長：27 年度）池田寿生（同課長：28 年度）

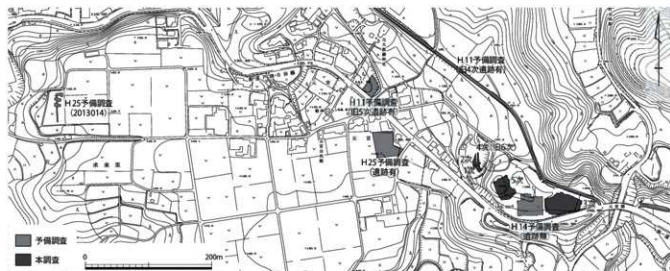
調査事務 園田恭一郎（同埋蔵文化財主幹：～27 年 9 月）古賀信一（同主幹：27 年 10 月～）

謙山温子（同主事：26・27 年度）、若杉竜太（同主査・試掘担当）、上原翔平（同主任）

調査員 行時桂子（同主査・調査担当）、渡邊隆行（同主査）

発掘作業員 秋吉新六、江藤キミ子、加藤祐一、河津モリ、北澤幾子、財津真弓、原田善人、松下宣男  
宮木博幸、森山敬一郎

整理作業員 高瀬真奈美、武石和美、用松 操、吉田里美



第1図 調査区位置図 (1/6,000)

## II 遺跡の立地と環境

元宮遺跡は、日田盆地東部の「元宮原」と呼ばれる阿蘇4火砕流堆積物により形成された台地上に位置し、台地のほぼ全体が元宮遺跡として周知されている。この台地の南側は三隈川（筑後川）による沖積地、東側は求来里川により開析された谷が形成されている。調査対象地は台地東部の高まりにあり、遺跡のなかでは最も高い場所にあたる。台地上は大部分が畑地として利用されており、調査対象地近辺の高い部分には集落や福祉施設、酪農施設などがある。畑地はかつては多少の起伏があったが、昭和30年代頃の農業基盤整備事業によりに平らに削られ、このときに弥生時代中期の土器や後期の甕棺墓などの墓地在発見されたといわれており、少なくとも弥生時代から生活の場として利用されていたようである。古代律令下においては『豊後国風土記』記載の日田郡五郷の一つで日下部氏の拠点とされる朝編郷に属したと考えられ、遺跡中ほどには貞観元(859)年創建とされる元大原神社が鎮座するなど、記録にも残る開けた土地であったことが想像される。

元宮遺跡ではこれまでに6回の調査が行われている。1・2・4次調査は今回の調査箇所の東隣で土砂採取工事によって実施され、弥生時代後期後半～古墳時代と考えられる石棺墓・石蓋土坑墓・甕棺墓・木棺墓・土坑墓が確認されている。甕棺墓からは熟年以上男性の人骨、石蓋土坑墓からは成年後半男性の人骨が出土している。3次調査は今回の調査箇所と同一敷地内の西隣で福祉施設建設に伴って実施され、古墳時代と考えられる箱式石棺墓・石蓋土坑墓・土坑墓、時期不明の方形周溝状遺構のほか、頂部に釈迦如来を示す梵字の彫り込みのある笠塔婆が立てられた中世の塚が確認されている。この笠塔婆は元大原神社境内に移設され、市有形文化財に指定されている。台地上の予備調査では、平成11年の市道建設に伴う調査で近現代の土坑、駐車場造成で古代の瓦や土師器が出土し、平成25年度の予備調査で中世の生活遺構が確認され、台地西端の畑地で行われた調査では、耕作土直下から盛土を失った片袖横穴式石室を備えた周溝直径約20mの6世紀後半の古墳が確認されている。

元宮遺跡の周囲を概観すると、遺跡の南側の小台地や谷には東寺原遺跡(6)・古金遺跡(7)・日高遺跡(10)などがあるが、様相は不明である。対して、小谷を隔てて西の丘陵には鳥羽塚古墳(4)・会所山古墳(3)・裝飾古墳1基を含む7基の円墳からなる法恩寺山古墳群(5)など多くの小円墳が集中している。

〈参考文献〉『日田市史』日田市 1990 ほかに日田市教育委員会発行の関係遺跡報告書など



第2図 周辺遺跡分布図(1/20,000)

### III 調査の記録

#### (1) 調査の概要 (第3～5図)

調査対象地は老人福祉施設の来客や職員用の駐車場として利用されていたため、丘陵ではあるものの立木などはなく碎石が散かれ、一部には既存建物建設の際の廃土が盛られていた。予備調査では現地表面からの深さ約40～90cmで弥生～古墳時代と考えられる石棺墓・土坑墓などが確認されており、丘陵のうち建物位置にあたる部分を削平する建設計画のため、建物予定地全体を調査対象(820㎡)とした。調査はまずこの碎石を除去し、最も高い部分にあたる調査区西側から低い南東側に向かって重機により表土除去を行い、廃土は調査区外へ搬出した。薄い表土層から20cm程度の深さで褐色粘質土が検出され(第4図)、この層を地山面と判断した。標高の高い部分では表土の直下で石蓋や遺構と思われる暗褐色土が次々と確認され、最終的には調査区の北側約1/3の範囲に石棺墓5基、石蓋土坑墓23基、土坑墓18基の計46基の墓群が集中して検出された。また墓群からやや離れた調査区中心あたりでは大きな不定形のくぼみ状を呈する2号土坑が、調査区東端では浅い溝状遺構が2条検出された。これら以外の部分については、遺構の存在は確認されなかった。

以下、検出された遺構および出土物の説明を行う。

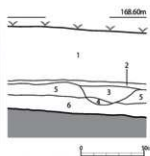
#### (2) 遺構と遺物 (第4～28図)

箱式石棺墓(第6～9図、写真図版2・3)

2・8・10・19・36号墓が該当する。いずれも2段掘りの墓壇を呈し、主体部床面は地山成形であった。このうち、8号は土圧等により蓋石が転落した状態で、19

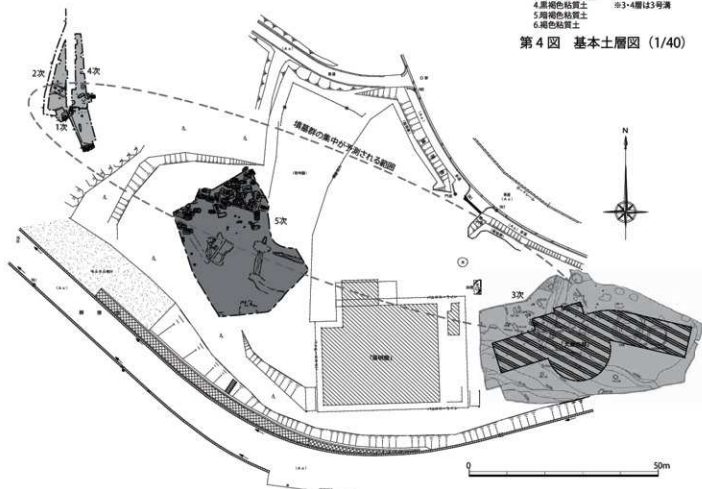


写真2 基本土層



- 1.赤褐色Br+白褐色Br+白色R
  - 2.黒褐色粘質土
  - 3.暗茶褐色粘質土
  - 4.黒褐色粘質土
  - 5.暗褐色粘質土
  - 6.褐色粘質土
- ※3-4層は3号溝

第4図 基本土層図 (1/40)



第3図 周辺地形図 (1/1,000)





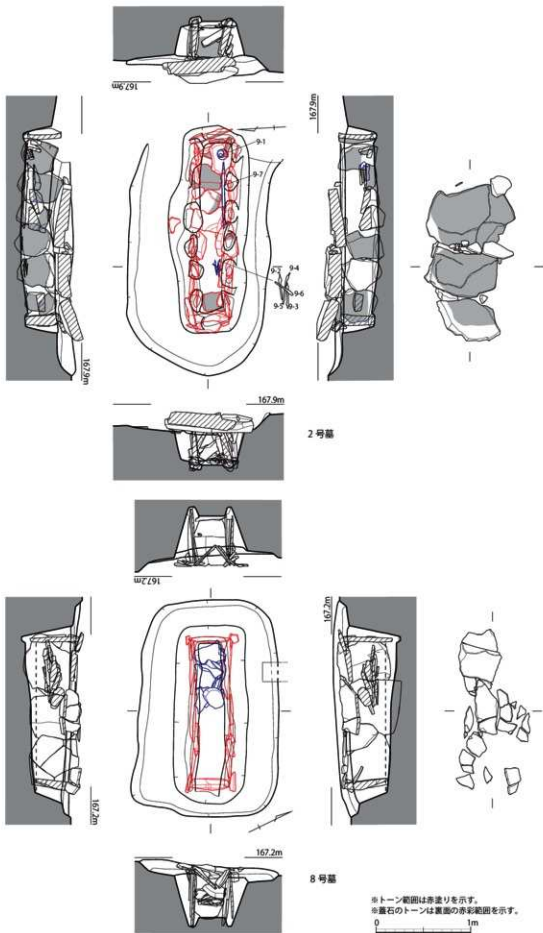
第5図 調査区全体図 (1/200)

号は上部と南東側の削平により蓋石と側壁の多くを失っていた。

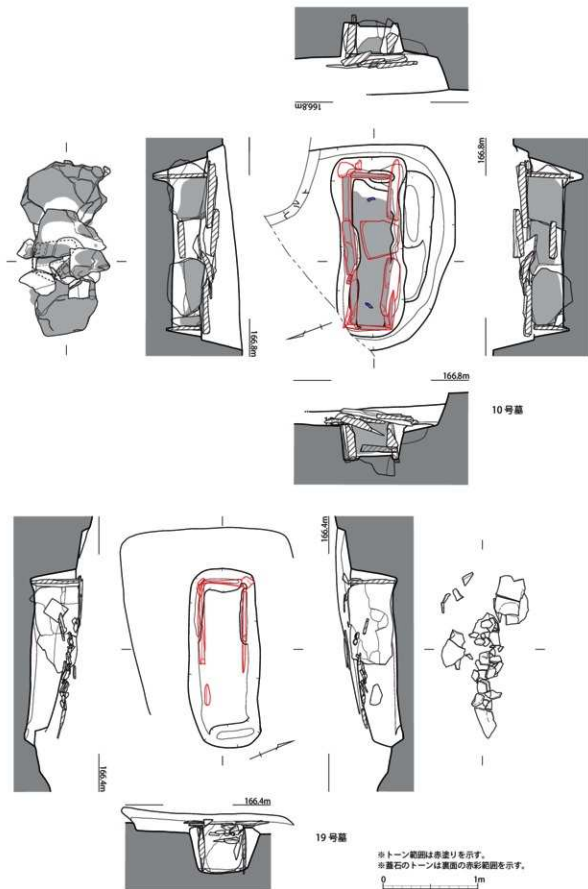
2号墓(第6図)は37・46号墓を切っている。側壁・蓋石内面に赤色顔料を塗布していた。人骨の残存は見られないもの、主体部内の頭位(東側)左には須恵器甕1、左手治いに鉄刀1、左足部に鉄鏃5点を埋葬していた。

8号墓(第6図)は32号墓を切っている。床面を掘りすぎてしまっており、本来の床面は10cm程上である。

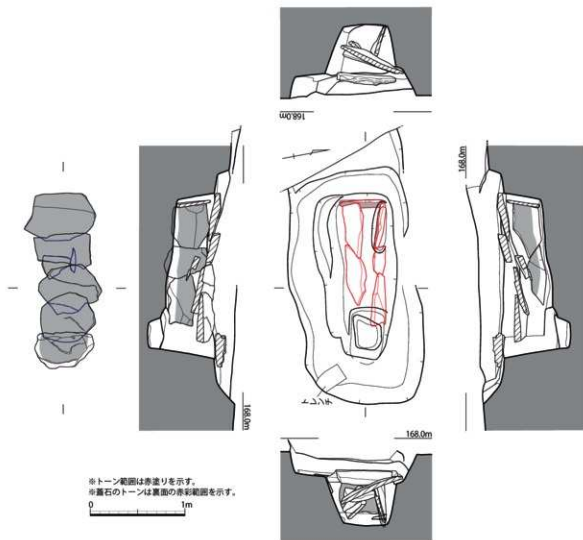
10号墓(第7図)は11号墓に切られ、南側中位の側壁が内側に倒れていた。主体部全面と蓋石内面に赤色顔料の塗布が認められた。さらに頭位付近に頭蓋骨頭頂部付近、足付近に骨片が認められたが、性別年齢などを判



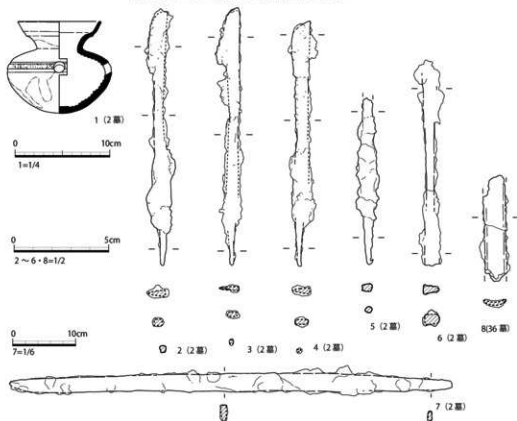
第6図 2・8号石棺墓実測図 (1/40)



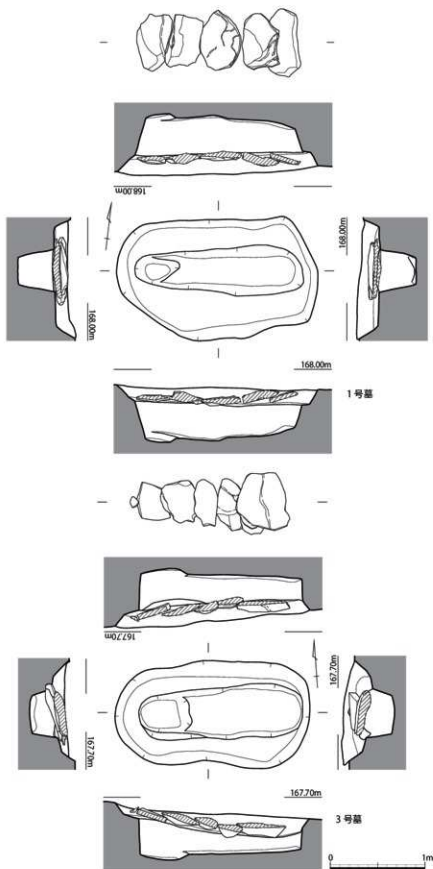
第7図 10・19号石棺墓実測図 (1/40)



第8図 36号石棺墓実測図 (1/40)



第9図 石棺墓出土遺物実測図 (1/2、1/4、1/6)



第10図 1・3号石蓋土坑墓実測図 (1/40)

定することは不可能であった。主体部の南側には長さ98cmほどの掘り込みが認められ、石棺墓構築前に作られた主体部の可能性が考えられる。

19号墓(第7図)は南東側が大幅な削平を受けており、蓋石の大部分と側壁の半分を失っていた。

36号墓(第8図)は35号墓を切っており、側壁及び蓋石内面に赤色顔料が塗布されていた。床面は若干掘りすぎているものの、足元部分は堀込が認められる。主体部からは施の破片が確認された。

#### 石蓋土坑墓

(第10～20図、写真図版6～9)

1・3～7・9・11～18・20～23・31・32・35号墓が該当する。いずれも2段掘りの墓壇で、主体部は地山成形である。このうち5・6・23号墓は重ねの蓋石の大部分を削平により失っていたが、残存する蓋石が主体部直上の上になっていることなどから石蓋土坑墓と判断した。

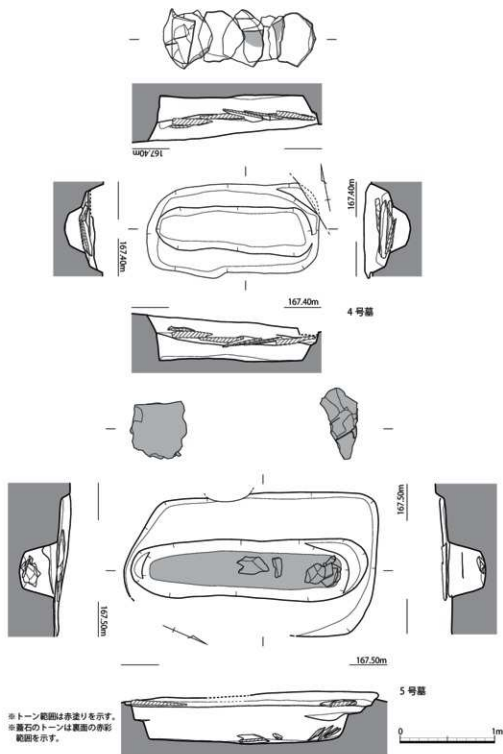
1号墓(第10図)は37号墓を切っており、主体部足元に掘り込みが見られる。

3号墓(第10図)は46号墓に隣接し、主体部足元に掘り込みが見られる。

4号墓(第11図)は5号墓を切っており、蓋石内面の一部に赤色顔料の塗布が認められた。

5号墓(第11図)は4号墓に切られ、石蓋の大半は主体部内に崩落していた状態であった。石蓋内面及び主体部に赤色顔料の塗布が認められた。

6号墓(第12図)は5号墓を切り、蓋石内面に赤色顔料が塗布されていた。



第11図 4・5号石蓋土坑墓実測図 (1/40)

7号墓(第12図)は蓋石内面に赤色顔料の塗布が認められた。

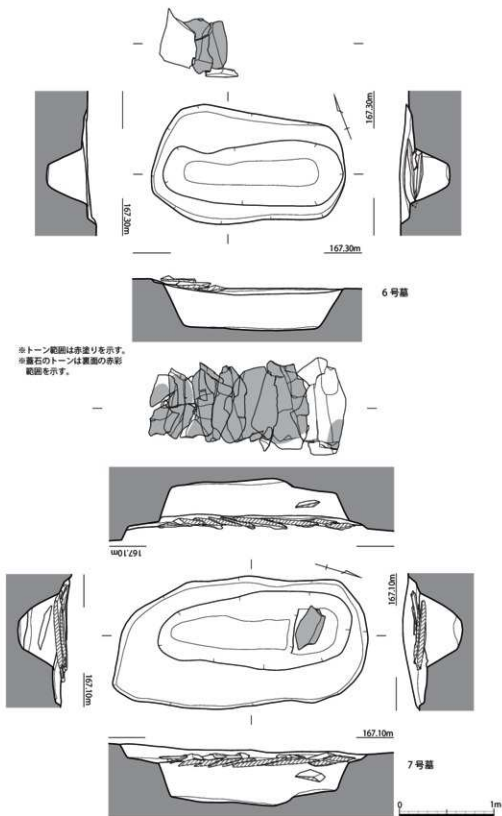
9号墓(第13・19図)は23・24号墓を切っており、主体部頭位付近より浮いた状態で甕1点が出土した。

11号墓(第13図)は10号墓を切っており、一部が調査区外にかかっている。石蓋内面に赤色顔料が認められた。

12号墓(第14図)は13・14号墓に挟まれた小児墓で足元が掘り込まれる。段掘部は判然としなかった。

13号墓(第14図)は12号墓に隣接し石蓋内面及び主体部に赤色顔料の塗布が認められた。

14号墓(第15図)は12号墓に並列し44号墓を切り、43号墓に切られる。主体部の足元が小さく掘り込まれる。

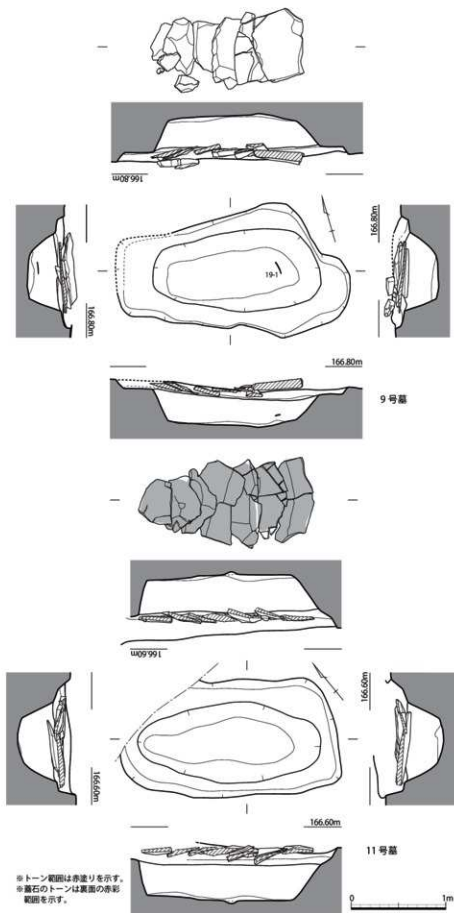


第12図 6・7号石蓋土坑墓実測図 (1/40)

15号墓（第15図）は16号墓を切る小児墓で、段掘墓壇は削平を受けていた。

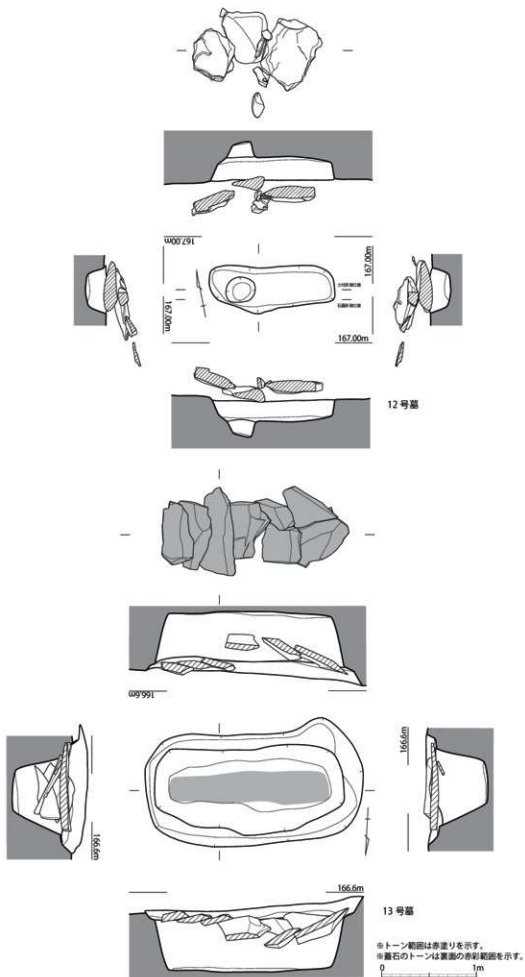
16号墓（第16図）は44号墓を切り15号墓に切られる。蓋石内面の中心部は赤色顔料がはげ落ち、主体部床面に赤色顔料が塗布されていた。

17号墓（第15図）は28号墓を切る小児墓である。



第13図 9・11号石蓋土坑墓実測図 (1/40)

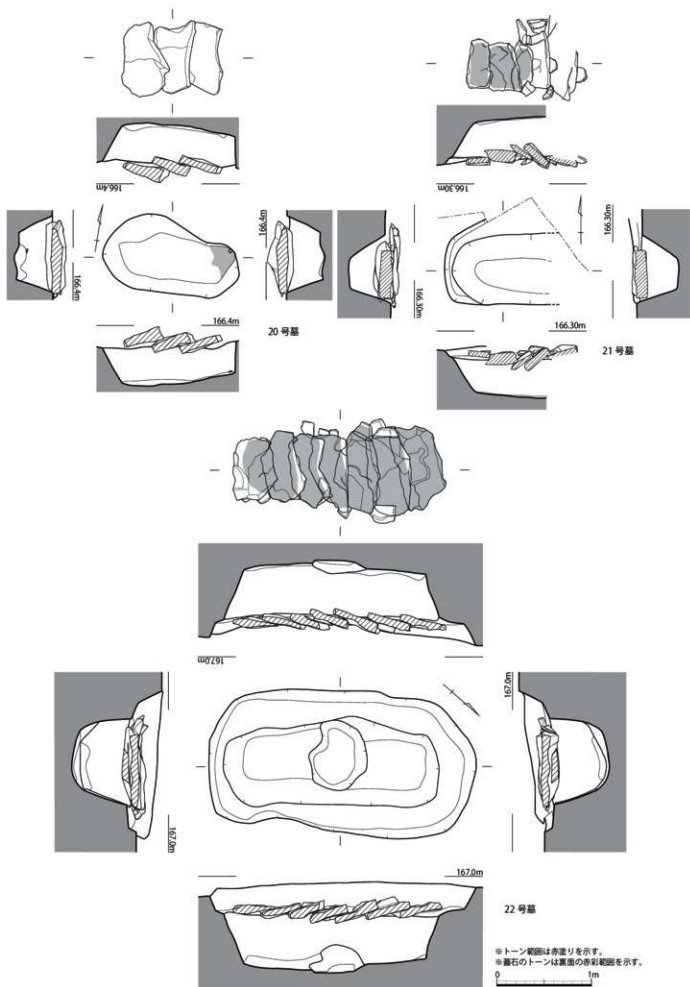




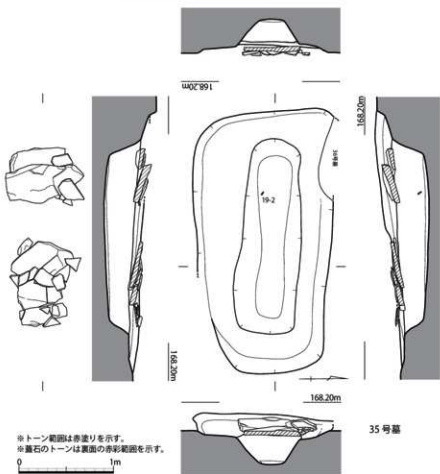
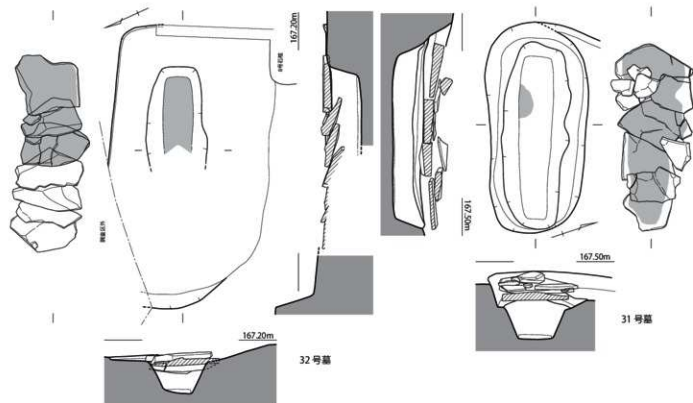
第14図 12・13号石蓋土坑基実測図 (1/40)



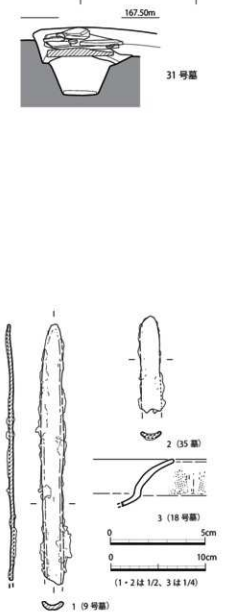




第17図 20～22号石蓋土坑墓実測図 (1/40)

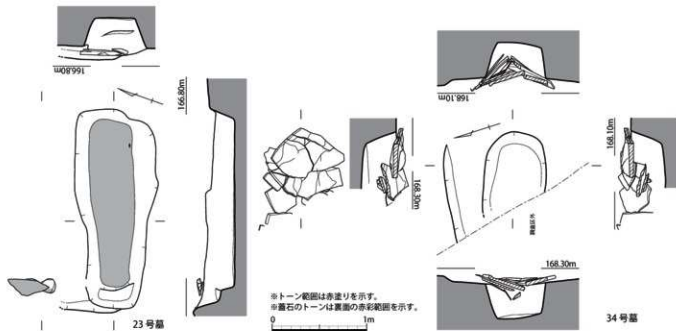


※トーン範囲は赤塗りを示す。  
 ※墓石のトーンは裏面の赤彩範囲を示す。



第19図 石蓋土坑墓出土遺物実測図  
 (1/2、1/4)

第18図 31・32・35号石蓋土坑墓実測図 (1/40)



第20図 23・34号石蓋土坑墓実測図(1/40)

22号墓(第17図)は蓋石内面に赤色顔料が塗布されていた。

23号墓(第20図)は9・24号墓に切られ、蓋石の大半を失っていた。主体部床面には赤色顔料の塗布が認められた。

32号墓(第18図)は8号墓を切り、調査区北端にかかっており破損の及ぶ箇所を調査を行った。蓋石内面及び主体部床面に赤色顔料の塗布が認められた。

31号墓(第18図)は32号墓に並列しており、蓋石内面に赤色顔料が塗布されていた。

34号墓(第20図)は調査区東端で検出され、大半が調査区外にかかっている。

35号墓(第18・19図)は36号墓に切られており、頭部床面より浮いた状態で甕1点が出土した。

#### 土坑墓(第21～25図、図版9～13)

24～30、33、37～46号墓が該当する。2段掘りのものが殆どであるが、41・42・43・46は削平のため判然としない。このうち、24～30・33・40・43号墓は墓壇上部に浮いた状態で主体部内に板石が転落した状態であったため蓋石とは判断せず、土坑墓の標石と判断した。

24号墓(第21図)は9号墓に切られ、23号墓を切る。主体部中央部に大型の板石が転落し、両小口部に赤色顔料が認められた。

25号墓(第21図)は主体内に小型の板石が転落していた。

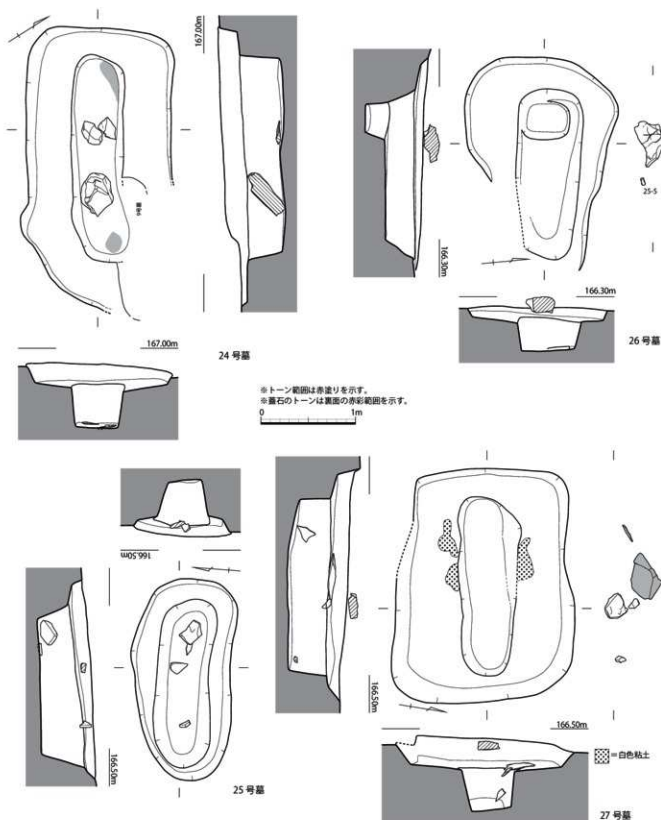
26号墓(第21・25図)は掘り方内に板石が一枚置かれていた。主体部頭位の掘り込みは掘りすぎの可能性ある。掘り方部の標石傍からは鉄斧1点が出土した。

27号墓(第21図)は43号墓を切り、掘り方上部に標石と思われる板石が一枚置かれていた。主体部中央部北端には板石が1枚置かれ、裏面に朱が塗られていた。主体部周囲には目貼粘土が現存しており、木蓋と石蓋の併用であった可能性が考えられる。

28号墓(第22図)は17号墓に切られ、板石が複数点転落しており、主体部床面には赤色顔料が塗布されていた。

29号墓(第22図)は30・45号墓を切っており、掘方に板石が複数点置かれ、複合口縁面の破片1点が出土した。主体部は足元に掘り込みがされ、頭位部分には赤色顔料が塗布されていた。頭位西側には素環頭刀1点が切っ先を下にして副葬され、中位では鉄鏝1点が出土した。

30号墓(第22図)は45号を切り、29号墓に切られ、掘り方に板石複数点が置かれ、主体部足元に掘り込み

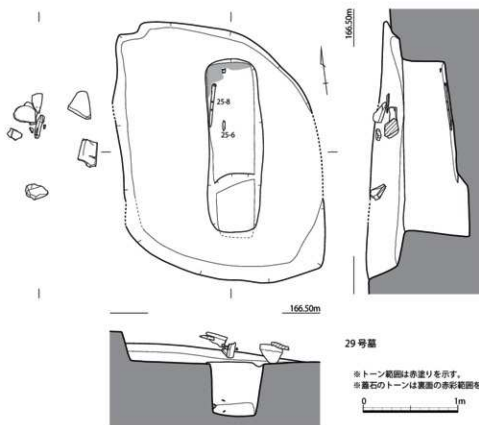
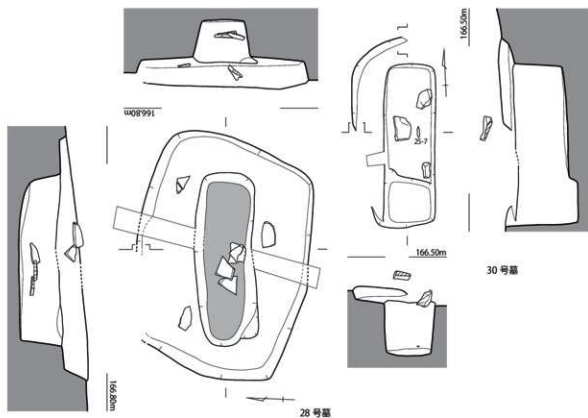


第 21 図 24～27号土坑墓実測図 (1/40)

がなされていた。主体部中位からはやや浮いた状態で鉄鏝が出土した。

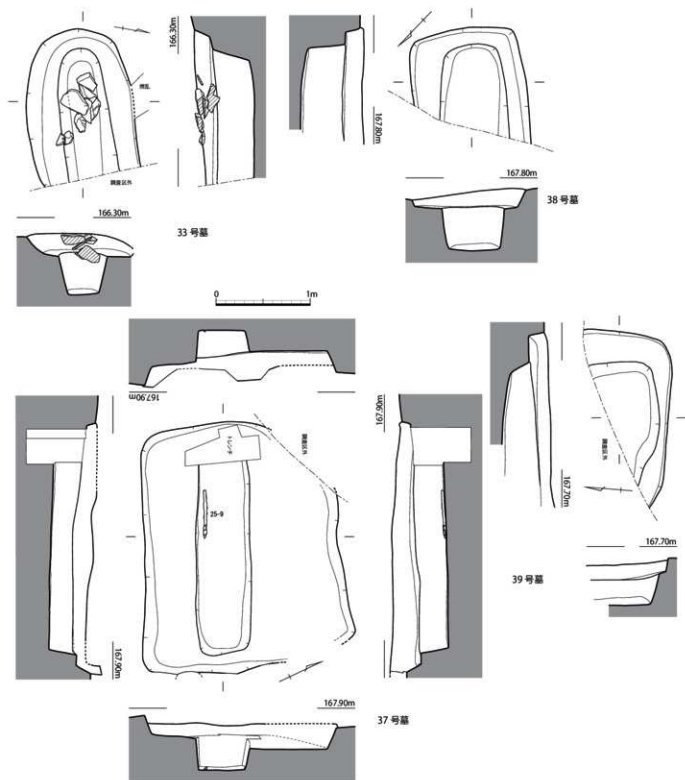
33号墓(第23図)は調査区北端にあり、大半が調査区外に広がる。掘り方西側に複数点の小型板石が固定されていた。

37号墓(第23図)は1・2号墓に切れ、一部が調査区外にかかっている。主体部南西側に鉄刀が切先を上



第22図 28～30号土坑墓実測図 (1/40)





第23図 33・37～39号土坑墓実測図 (1/40)

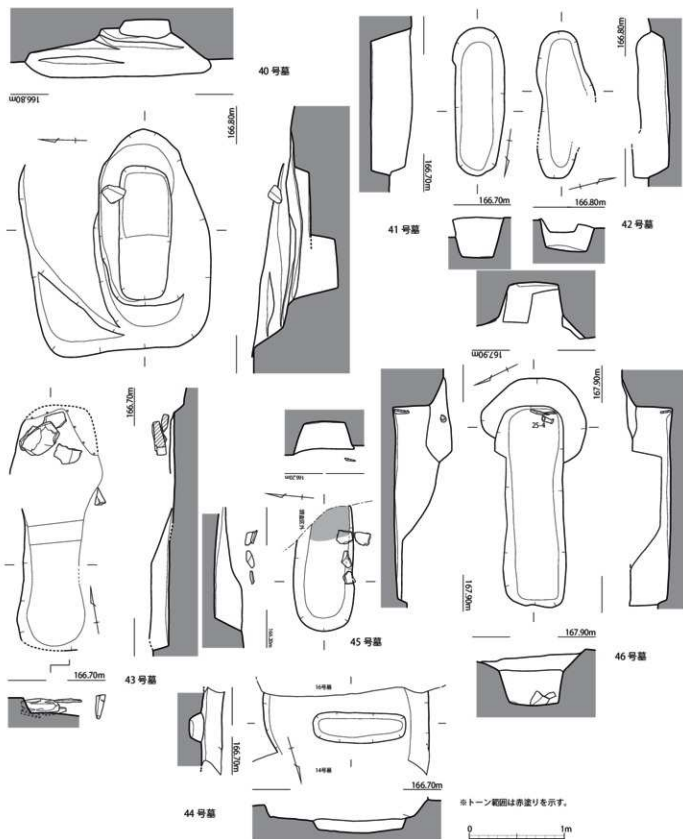
して1点副葬されていた。そのほか埋土中からは甕の底部が出土している。

38号墓(第23図)は2号墓に隣接し、大半が調査区外にかかっていた。

39号墓(第23図)は38号墓に並列し、大半が調査区外にかかっていた。

40号墓(第24図)は18号墓に近接し、掘り方に対し主体部が南側に寄っていた。

41号墓(第24図)は28号墓に近接し、主体部のみ残存していた。小児用墓か。

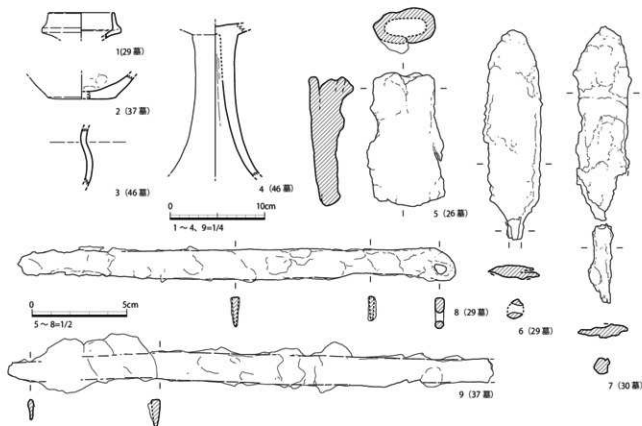


第24図 40～46号土坑墓実測図 (1/40)

42号墓（第24図）は30・29号墓に切られ、主体部のみ残存していた。小児用墓か。

43号墓（第24図）は14・27号墓に切られ、北側に標石が残存していた。

44号墓（第24図）は14・16号墓に切られている小児用墓である。



第25図 土坑墓出土遺物実測図(1/2、1/4)

45号墓(第24図)は29号墓に切られ、大半が調査区外にかかっている。主体部中央部に赤色顔料が見られた。46号墓(第24図)は2号墓に切られており、掘り方南東端より高環脚部1点が出土し、埋土からは小型丸底壺の胴部破片1点が出土した。

#### 土坑

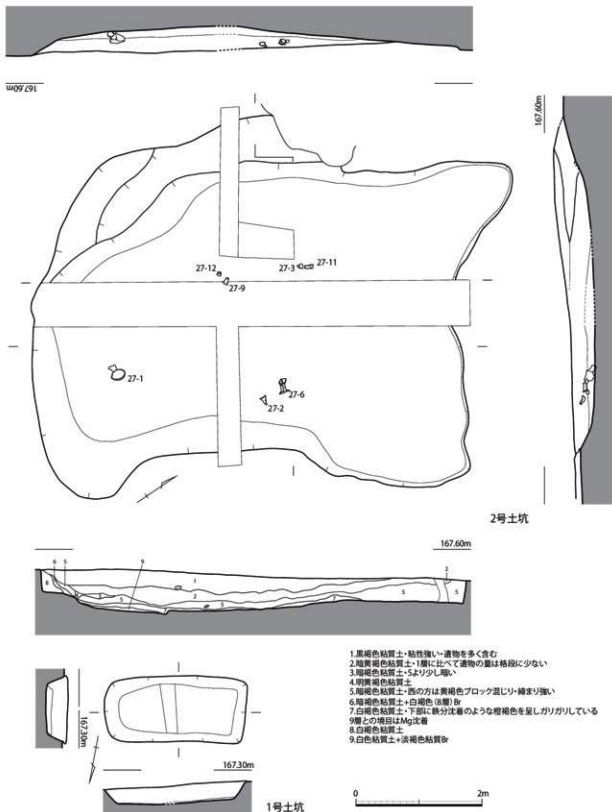
1号土坑(第26図)は土坑墓の可能性も考えられるが、主体部とするには小型で幅が広いことから土坑とした。2号土坑(第26図)は墓群よりやや離れた状態で黒色系の埋土が堆積した長さ6～9m程の浅いくぼみ状の落ち込みで、レンズ状に上(1)層、中(2)層、下(3～6)層の大きく分けて3層順に堆積していた。これらの最下層の7・9層にはマンガン堆積や鉄分沈着が見られることから、この落ち込み状の土坑は当初水気を含む溜で、その後下・中・上層と連続して自然堆積していったものと考えられる。

この落ち込みからは遺物が複数出土しており、墳墓群の祭祀土坑としての扱いであったと考えられる。湿った溜部分に祭祀土器を投げ込んだのであろうか。ただし遺物の出土が多いのは中層と上層で中層からの出土は少なかった。

遺物は大きく下層の(1)、中層の(2・6)、(3・11)、上層の(9・12)の単位に分けられ、埋没時期の差を示す可能性がある。1は注口付長頸壺、2～4は在地系高環、5は豊前系の高環、6～8は在地系高環脚部である。9は畿内系高環の脚部、10は打製石鏃、11は手鏃、12は袋状鉄斧である。

#### その他の遺構

調査区からは他にも溝などが確認されている。1・2号溝は調査区東側にあり方位軸を併せて置かれていたが、埋土が柔らかいことから近世から近代のものだと判断した。また墳墓群のそばにも溝状の掘り込みが見られたが周溝墓や区画墓などとは判断できなかった。

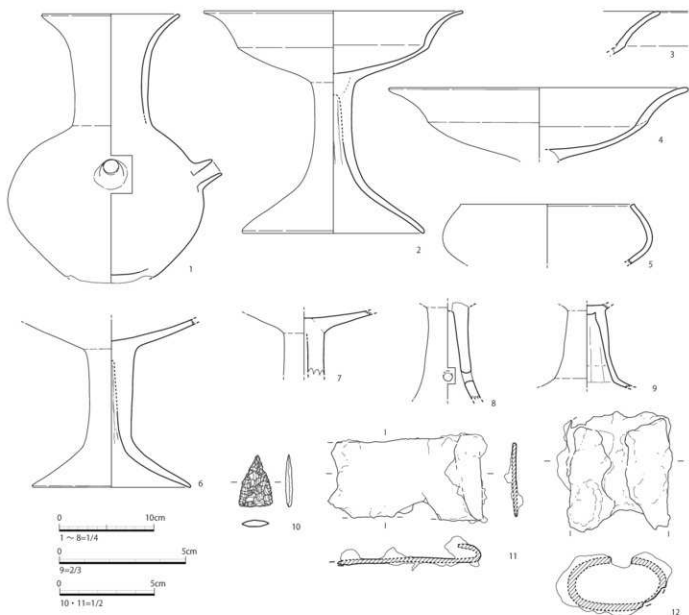


第 26 図 土坑実測図 (1/60)

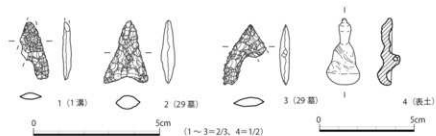
#### その他の出土遺物 (第 28 図)

溝や墓から出土したその遺構に伴わない遺物と表土中から出土した遺物を紹介する。

1～3は打製石鏃である。いずれも凹基式の鏃で縄文期のものであろうか。4は青銅製の懸仏で、3次調査で確認された中世の塚などと関連するものであろうか。



第 27 図 2 号土坑出土遺物実測図 (2/3、1/2、1/4)

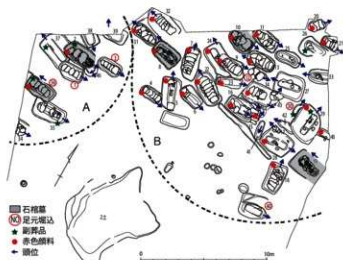


第 28 図 その他の遺物実測図 (2/3、1/2)

#### IV 総括

過去 4 回の調査 (第 1・3 図) から、墳墓群は元宮原台地のなかでも最も高い舌状丘陵の頂部に位置しており、本調査区 (5 次) は丘陵最頂部にあたる。この 1~4 回の墳墓群を結んだ範囲に 5 次調査区北端

は含まれており、丘陵に沿って列状に墳墓が集中していたものと考えられる。5 次調査で確認された墳墓は総数 46 基の石棺・石蓋土坑墓・土坑墓が入り組み、調査区のなかでも最も標高の高い場所に密集していた。さらに墳墓群のそばには祭祀遺構 (2 号土坑) があり、土層観察などから、水溜状の落ち込みに土器を捨てたような状態であったと考えられ、なおかつ複数回の廃棄行為が確認された。



第29図 墳墓群展開図 (1/400)

さて、2号土坑の時期は下・中層が在地系の長頸壺27-1や高環27-2・3・6などから5a期、上層は布留系高環脚部27-9からI b～II期、そのほか高環27-4が5b期に該当し、概ね弥生後期終末から古墳前期までの各時期毎の廃棄が想定される。墳墓出土遺物は供献ないし埋没時の流入などがあり、37号墓の平底気味の底部25-2は4～5a期、18号墓の高環19-3は5a期、46号墓の在地系高環25-4や小型丸底壺27-3はI期、29号墓の小型二重口緑壺25-1はI b～c期で2号土坑の廃棄時期とほぼ合致する。一方で、2号墓出土の須恵器甕9-1はTK 218～

208期に該当し中期中頃とやや新しい。このように出土遺物から想定される墳墓群の継続時期は弥生後期終末から古墳中期中頃となる。そのほか、29・30号墓の鉄鎌は柳葉式有茎鍬で水野氏の前期I（前半）、29号墓の素環頭刀は児玉氏のII型に該当し朝日宮ノ原遺跡D区16号墓に類似し概ね弥生終末から古墳前期代、2号墓の片刃形長頸鎌は鎌身間部が角をなし頭部も角間とみられることから水野氏の中期3～4期頃（中期中頃から後半）と想定される。このように鉄器は土器で想定される時期と大きく齟齬はないものと想定される。

次に墳墓群の型式・頭位方向・副葬遺物などの特徴について検討する。調査区西端側に土坑墓（26～30）が集中する傾向が見られるものの、その他の型式の分布に大きな違いはなく、型式毎の時期変遷は明確な傾向は見いだせない。主軸方向については分布に違いはなく、東西主軸のものが主体を占め、南北主軸は数基である。頭位方向は主軸同士で混在しており、時期毎に頭位が異なる可能性があることから、弥生時代以来の差し向かいの原理が維持されていたものであろうか。副葬遺物については、調査区西端と東端の遺構に多く、赤色顔料は調査区中央部から東側の墳墓に多く見受けられる。以上の特徴と分布域などから、調査区西側（A群）と中央部から東側（B群）の2群に大きく分けられ、B群はさらに分布型式の違いなどから中央部と東部に分かれる可能性がある。また、A・B両群では相互の墓の位置を意識した造営が行われており、A群の35・36やB群の8・31・32、10・11・12・13や14・16といった相互の墳墓位置を意識した造営関係が見られる一方で、時期の新しい2号墓のように古い墳墓を大幅に破壊する行為がB群の9・29号墓でも見られることが特徴である。

以上をまとめると、墳墓の造営は弥生終末から古墳前期に継続的に実施され、相互の墳墓を意識した造営単位が抽出可能で、その単位には赤色顔料の塗布や副葬品、墳墓形式の違いなどがあり、明確ではないが単位間の差異等を示すものであったと想定される。しかし、中期に入ると墳墓を大きく破壊して造営する墳墓が出現するなど、祖先意識が薄れつつも従来の紐帯が意識されていたものと考えられる。

5次調査の成果をもとに元宮遺跡の墓域形成過程を整理すると、1・2・4次は弥生後期後半の襃棺墓等、3次調査は中期代の墳墓群が疎らに検出されていることから、弥生後期後半に開始された墓域造営は丘陵西側を中心としながら開始され、中央部の5次一帯に密集し、中期代になるとそれまでの墳墓造営と異なり、東側の3次も含めて疎らな造営が行われるものと想定される。いずれにしても今回の調査は元宮遺跡のみならず、筑後川上流域の弥生時代後期後半から古墳時代中期にかけての墓域形成を考える上での貴重な成果を得られたと言える。

#### 【参考文献】

- 児玉真一 1982 「鉄製素環頭・集団墓出土資料を中心に」『森貞次郎博士古希記念古文化論集』  
 水野敏典 2007 「古墳時代鉄鎌研究の諸問題」『古代武器研究』第8号 古代武器研究会  
 渡邊隆行 2017 「筑後川上流域の古式土師器の状況」『九州島における古式土師器-第19回発表資料』九州前方向墳研究会

第1表 検出墳墓一覧表

検出 順号	遺構名	種類	土輪 (°)	墳墓規模 (cm)				全体部				赤色顔料	出土物	石研	備考	
				高さ	幅	長さ	直径	高さ	長さ	幅	幅内土層					
6	2号墓	石船墓	93	265 ± a	150	19	215	47	32	187	32	○	鉄鏝 5、鉄刀1、鏝1			
	8号墓	石船墓	334	229	149	14	162	42	40	143	29	×	○			
	10号墓	石船墓	111	217	153	14	165	44	37	156	40	○	○	人形片		
7	19号墓	石船墓	292	232 ± a	180 ± a	15	155	43	43	156	40	×	×			
	36号墓	石船墓	280	250	133	25	165	34	30	149	25	○	○	鏝1		
10	11号墓	石船土坑墓	183	212	127	23	177	53	41	158	30	×	×		陶器片	船土層の込み深さ 7cm
	13号墓	石船土坑墓	34	205	112	30	132	55	39	169	45	×	×		磁器・瓦・土器片、亀はら削片	船土層の込み深さ 5cm
11	4号墓	石船土坑墓	101	181	98	20	163	50	20	153	35	×	×			
	5号墓	石船土坑墓	336	265	153	10	248	66	40	200	37	○	○			
12	6号墓	石船土坑墓	110	204	123	10	189	68	41	141	28	×	×			
	7号墓	石船土坑墓	342	260	138	15	203	82	44	174	48	○	○			
13	9号墓	石船土坑墓	106	244	142	10	176	86	32	140	50	×	×		鏝1	
	11号墓	石船土坑墓	129	233	124	13	125	84	36	158	47	○	○			
14	12号墓	石船土坑墓	34	205	112	30	132	55	39	169	45	×	×			
	13号墓	石船土坑墓	297	230	118	16	199	91	52	168	34	○	○			
14	14号墓	石船土坑墓	104	228	146	22	150	56	31	130	33	×	×			
	15号墓	石船土坑墓	351	-	-	-	106	30	24	95	23	○	×			
16	17号墓	石船土坑墓	284	-	-	-	76	32	12	70	18	×	×			
	16号墓	石船土坑墓	102	248	147	19	204	82	38	181	46	○	○			西側2号墓片、東側2号土器
17	18号墓	石船土坑墓	9	242	152	29	172	40	39	168	37	○	○			
	20号墓	石船土坑墓	91	211	114	7	112	76	37	90 ± a	36	○	×			
18	21号墓	石船土坑墓	90	120 ± a	91 ± a	7	112	76	37	90 ± a	36	○	×			
	22号墓	石船土坑墓	319	282	157	29	228	93	56	192	52	○	×			
20	31号墓	石船土坑墓	288	223	110	24	198	64	33	172	36	○	○			
	32号墓	石船土坑墓	294	284 ± a	168 ± a	4	104 ± a	65	35	81 ± a	33	○	○			
20	35号墓	石船土坑墓	271	275	147 ± a	17	206	67	38	172	36	×	×		鏝1	
	34号墓	石船土坑墓	107	100 ± a	7	81 ± a	96	37	99 ± a	54	×	×				
21	23号墓	土坑墓	71	211 ± a	96 ± a	4	210	44	24	176	47	×	×			
	24号墓	土坑墓	302	300	157	22	219	55	45	206	46	×	×			
21	25号墓	土坑墓	85	213	112	19	178	60	40	152	36	×	×			
	26号墓	土坑墓	275	225	162	31	180	67	32	147	58	×	×		鉄杖残片1	
22	27号墓	土坑墓	261	247	191	20	190	67	45	179	40	×	×			土坑墓内に白色粘土
	28号墓	土坑墓	88	263	183	27	183	60	46	167	46	×	○			
23	29号墓	土坑墓	7	273	211	39	183	54	55	185	49	×	○			裏面削片1、鉄鏝1、土器
	30号墓	土坑墓	2	202 ± a	98 ± a	13	174	55	24	176	47	×	×			
23	33号墓	土坑墓	261	157 ± a	112	17	136 ± a	54	45	123 ± a	31	×	×			
	37号墓	土坑墓	290	265	204	20	202 ± a	57	32	196 ± a	50	×	×			鉄刀1、土器
24	38号墓	土坑墓	137	108 ± a	122	18	90 ± a	72	48	86 ± a	58	×	×			
	39号墓	土坑墓	-	185 ± a	95 ± a	18	131 ± a	55 ± a	34	108 ± a	45 ± a	×	×			
24	40号墓	土坑墓	88	195 ± a	191	36	145	55	18	65 ± a	48	×	×			
	41号墓	土坑墓	173	-	-	-	156	51	42	135	32	×	×			
24	42号墓	土坑墓	384	-	-	-	154	56 ± a	21	135	41 ± a	×	×			
	43号墓	土坑墓	10	-	-	-	250 ± a	61 ± a	21	250 ± a	61 ± a	×	×			
24	44号墓	土坑墓	107	173	85 ± a	18	98	32	14	88	20	×	×			
	45号墓	土坑墓	-	-	-	-	125 ± a	64	35	111 ± a	43	○	×			
24	46号墓	土坑墓	116	89 ± a	109	21	208	72	36	200	45	×	×			土器

中央内角は磁北を0°(360°)、東を90°、南を180°、西を270°として示す。

第2表 出土土器観察表

検出 順号	出土遺構	種類	形種	法線 (cm)			断面		土質	焼成	色澤		備考				
				口徑	高さ	底径	断面	外面			内面	外面		内面			
9	2号墓	赤生	鉄鏝	8.7	9.6	-	11.0	網状ナデ	網状ナデ	FF	良	暗灰色	NC3/	暗灰色	NC3/	外面自然焼	
	18号墓	赤生	高坪杯蓋	-	(5.0)	-	-	ナデ	ハナ目ナデ	ACB	良	褐色	7.5YR/6	褐色	7.5YR/6		
25	12号墓	赤生	土師器	12.0	12.0	-	-	コブナデ	コブナデ	ACE	良	褐色	7.5YR/7	褐色	7.5YR/7	内外面に赤点あり	
	46号墓	赤生	土師器	小形丸底蓋	-	(6.0)	-	ナデ	粗ネケナデ	AE	良	にぶい・黄褐色	10YR/7/4	にぶい・黄褐色	10YR/7/4	外面に黒点あり	
25	44号墓	赤生	土師器	丸底蓋	-	(16.1)	-	不明	不明	AE	良	明黄褐色	10YR/6/6	明黄褐色	10YR/6/6		
	12号墓	赤生	土師器	口付片蓋部	(0.41)	(28.5)	-	不明	不明	AE	良	明赤褐色	5YR/5/6	明赤褐色	5YR/5/6	底面に黒点あり	
27	2号墓	赤生	土師器	高坪	(7.2)	23.4	(19.0)	-	ナデ	不明	ABCE	良	にぶい・黄褐色	10YR/7/4	にぶい・黄褐色	10YR/7/4	外面に黒点あり
	42号墓	赤生	高坪杯蓋	31.3	(7.6)	-	-	不明	不明	ACD	良	明黄褐色	10YR/7/6	明黄褐色	10YR/7/6		
27	2号墓	赤生	高坪杯蓋	(18.3)	(6.3)	-	-	不明	不明	ACD	良	明黄褐色	10YR/7/6	明黄褐色	10YR/7/6	外面に黒点あり	
	6号墓	赤生	高坪	-	(7.6)	(16.6)	-	ナデ	不明	ABCE	良	明赤褐色	5YR/5/6	明赤褐色	5YR/5/6		
27	17号墓	赤生	土師器	丸底蓋	-	-	-	不明	不明	AE	良	にぶい・黄褐色	10YR/7/3	にぶい・黄褐色	10YR/7/3		
	8号墓	赤生	土師器	丸底蓋	-	(10.1)	-	不明	不明	BE	良	黄褐色	10YR/5/2	灰黄褐色	10YR/5/2	穿孔1ヶ所あり	
27	9号墓	赤生	土師器	丸底蓋	-	(8.8)	-	ナデ	ナデ	ACDE	良	褐色	5YR/6/6	褐色	7.5YR/7/6	外面に黒点あり	

第3表 出土土器・金属器観察表

検出 番号	遺構	形種	法線 (cm)			重量 (g)	材質	備考
			総長さ	総太径	総太厚			
9	2号墓	鉄鏝	13.5	1.6	0.7	14.3		
	3号墓	鉄鏝	13.6	1.4	0.5	11.3		
	4号墓	鉄鏝	12.8	1.6	0.6	11.9		
	5号墓	鉄鏝	(8.7)	0.28	0.4	7.3		
	6号墓	鉄鏝	(10.6)	1.6	0.9	11.1		
	7号墓	鉄刀	70.1	4.8	1.2			
	36号墓	鉄	(5.6)	1.7	0.5	4.6		
10	9号墓	鉄	(3.7)	1.9	0.6	13.3		
	35号墓	鉄	(5.1)	1.5	0.4	4.4		
	26号墓	銅杖残片	47.0	4.2	2.8	73.7		
	29号墓	鉄鏝	(11.3)	3.2	0.8	46.5		
	30号墓	鉄鏝	(14.2)	3.1	0.9	41.1		
25	8号墓	銅鏝片	46.1	3.7	1.0			
	37号墓	鉄刀	21.9	6.2	1.3			
	2号墓	打製石鏝	0.53	1.35	0.30	0.64	燧石	
26	2号墓	打製石鏝	4.7	8.4	1.8	38.2		
	11号墓	打製石鏝	6.9	6.9	3.3	123.5		
	1号墓	打製石鏝	(2.2)	(1.15)	0.35	0.69	燧石	先端部・片断部欠損
28	2号墓	打製石鏝	2.45	1.75	0.55	1.41	燧石	
	3号墓	打製石鏝	2.35	(0.70)	0.40	0.90	燧石	片断部欠損

法線の単位はcm、0. 書きは、視厚と視径を表す。  
 土: A内角部 B右石 C長石 D赤褐色  
 E白色粘土 F黄褐色 G青銅 H銅粒



調査区遠景（東から）



調査区全景（上が南西）



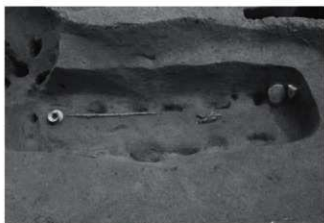
写真図版 2



① 2号墓検出状況（東から）



② 2号墓石棺検出状況（北から）



③ 2号墓完掘状況（北から）



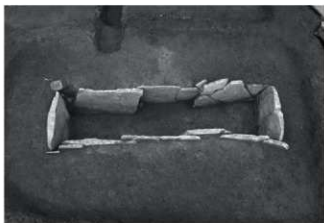
④ 2号墓副葬品出土状況①



⑤ 2号墓副葬品出土状況②



⑥ 8号墓検出状況（南西から）



⑦ 8号墓石棺検出状況（南西から）



⑧ 8号墓完掘状況（南西から）



① 10号墓検出状況（北から）



② 10号墓人骨出土状況（北から）



③ 10号墓完掘状況（北から）



④ 19号墓検出状況（南から）



⑤ 19号墓完掘状況（南から）



⑥ 36号墓検出状況（南から）



⑦ 36号墓石棺検出状況（南から）



⑧ 36号墓完掘状況（南から）

写真図版 4



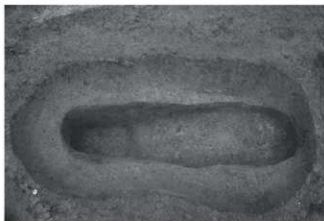
① 1号墓検出状況（東から）



② 1号墓完掘状況（南から）



③ 3号墓検出状況（西から）



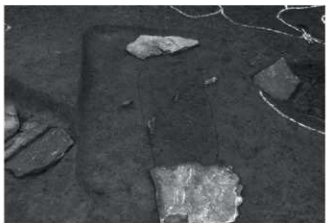
④ 3号墓完掘状況（南から）



⑤ 4号墓検出状況（西から）



⑥ 4号墓検出状況（西から）



⑦ 5号墓検出状況（南東から）



⑧ 5号墓完掘状況（北東から）



① 6号墓検出状況(南東から)



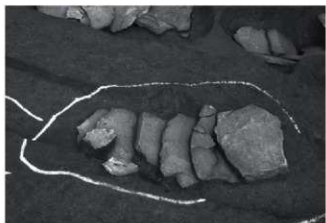
② 6号墓完掘状況(南西から)



③ 7号墓検出状況(北東から)



④ 7号墓完掘状況(北東から)



⑤ 9号墓検出状況(南から)



⑥ 9号墓完掘状況(南から)



⑦ 11号墓検出状況(北から)



⑧ 11号墓完掘状況(北から)

写真図版 6



① 12号墓検出状況 (東から)



② 12号墓完掘状況 (南から)



③ 13号墓検出状況 (南から)



④ 13号墓完掘状況 (南から)



⑤ 14号墓検出状況 (南から)



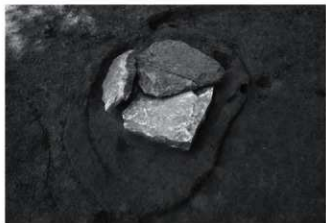
⑥ 14号墓完掘状況 (南から)



⑦ 15号墓検出状況 (南から)



⑧ 15号墓完掘状況 (東から)



① 17号墓検出状況（東から）



② 17号墓完掘状況（南から）



③ 16号墓検出状況（西から）



④ 16号墓完掘状況（南から）



⑤ 18号墓検出状況（南から）



⑥ 18号墓完掘状況（東から）



⑦ 20号墓検出状況（南東から）



⑧ 20号墓完掘状況（南東から）



写真図版 8



① 21号墓検出状況 (南から)



② 21号墓完掘状況 (南から)



③ 22号墓検出状況 (南西から)



④ 22号墓完掘状況 (南西から)



⑤ 31号墓検出状況 (南から)



⑥ 31号墓完掘状況 (南から)



⑦ 32号墓検出状況 (北から)



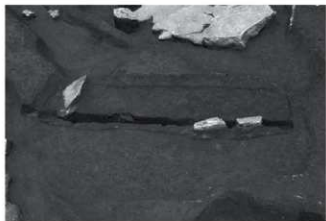
⑧ 32号墓完掘状況 (北から)



① 35号墓検出状況（北から）



② 35号墓完掘状況（北から）



③ 23号墓検出状況（南東から）



④ 23号墓完掘状況（南東から）



⑤ 34号墓検出状況（北から）



⑥ 34号墓完掘状況（北から）



⑦ 24号墓検出状況（南東から）



⑧ 24号墓完掘状況（北から）





① 25号墓検出状況（東から）



② 25号墓完掘状況（東から）



③ 26号墓検出状況（東から）



④ 26号墓完掘状況（南から）



⑤ 27号墓検出状況（北から）



⑥ 27号墓完掘状況（南から）



⑦ 28号墓完掘状況（南から）



⑧ 29号墓検出状況（東から）



① 29号墓完掘状況（東から）



② 29号墓遺物出土状況



③ 30号墓検出状況（東から）



④ 30号墓完掘状況（東から）



⑤ 30号墓副葬品出土状況



⑥ 29・30号墓完掘状況（南から）



⑦ 33号墓検出状況（南東から）



⑧ 33号墓完掘状況（南東から）



① 37号墓検出状況（北東から）



② 37号墓完掘状況（北東から）



③ 37号墓副葬品出土状況



④ 38号墓完掘状況（南西から）



⑤ 39号墓完掘状況（南から）



⑥ 40号墓完掘状況（南東から）



⑦ 41号墓完掘状況（北東から）



⑧ 42号墓完掘状況（南から）



① 43号墓完掘状況 (東から)



② 44号墓完掘状況 (南から)



③ 45号墓検出状況 (北から)



④ 45号墓完掘状況 (南から)



⑤ 46号墓検出状況 (南西から)



⑥ 1号土坑完掘状況 (東から)



⑦ 2号土坑検出状況 (南東から)



⑧ 2号土坑土層①



① 2号土坑土層②



② 2号土坑完掘状況 (南から)



③ 2号土坑遺物出土状況①



④ 2号土坑遺物出土状況②



⑤ 2号土坑遺物出土状況③



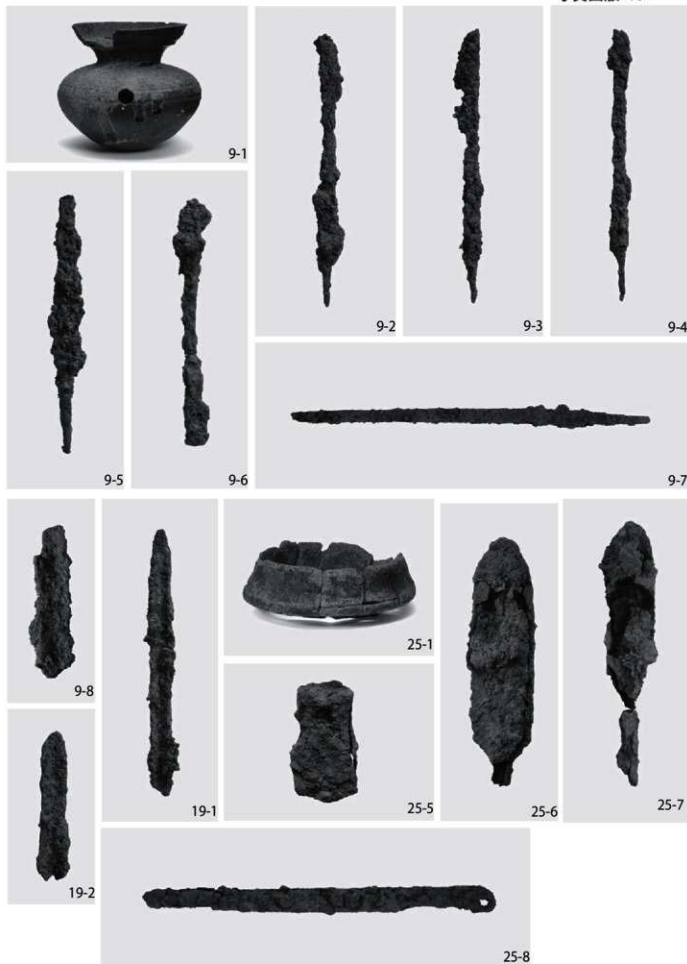
⑥ 2号土坑遺物出土状況④



⑦ 1号溝完掘状況 (北西から)



⑧ 2号溝検出状況 (南から)





25-9



27-1



27-6



27-4



27-9



27-10



27-11



27-12



28-1



28-2



28-3



28-4

報告書抄録

ふりがな	もとみやいせき5じ
書名	元宮遺跡 5次
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第127集
編著者名	行時 桂子・渡邊 隆行
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-8601 日田市田島2-6-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島2-6-1
発行年月日	2017年3月24日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もとみやいせき 元宮遺跡	大分県日田市大字 求来里	44204- 6	204192	33° 18' 48"	130° 57' 34"	140414 ~ 140807	820㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元宮遺跡	集落	弥生 古墳	石棺墓、石蓋土墳墓、土墳墓、 土坑、溝	須恵器、土師器、鉄鏃、鉄刀	

- 要約** 遺跡は日田盆地東部の台地上に位置する。本遺跡では今回の調査を含め、5次（箇所）にわたる調査が行われているが、調査地一帯の舌状台地上に弥生時代終末から古墳時代中期までの墳墓群が存在していたものと想定される。
- 5次調査では弥生時代終末から古墳時代中期頃の石棺墓や石蓋土墳墓などの墳墓群が密集して確認された。これまでの墳墓域のなかで、調査地が最も密集度が高く多数の副葬品が出土し、かつ古墳時代中期頃まで継続するなど様々な成果を得ることが出来た。



## 元宮遺跡 5 次

日田市埋蔵文化財調査報告書第 127 集

2016 年 3 月 24 日

編集 日田市教育庁 文化財保護課  
〒877-0077 大分県日田市南友田町 516-1  
発行 日田市教育委員会  
〒877-8601 大分県日田市田島 2-6-1  
印刷 尾花印刷有限会社  
〒877-0026 大分県日田市田島本町 8-8



日田市